



【ペルー】



レポーター  
あや  
馬場 綾さん  
(ペルー・リマ市在住)



ペルー  
人口：約3000万人  
面積：約1,290,000 km<sup>2</sup>(日本の約3.4倍)  
首都：リマ



▲シビボ族の集落と泥染め

## アマゾンのシビボ族と泥染めを守りたい!...

### 太古の森からのメッセージ

南米ペルー・アマゾンの先住民族シビボ族の女性たちは、すべてフリーハンドで神秘的な模様を描く。その模様は、シビボ族の先祖代々の脳内に刷り込まれてきた、太古の森からのメッセージなのかもしれない。

#### シビボ族との出会い

15年ほど前、リマの街中でシビボ族の女性と知り合い、一枚の不思議な模様の布を買った。どんな風にもこの模様が描き染められるのか自分の目で確かめたくて、シビボ族の住む村を訪れた。

森の暮らしはとっても素朴で、日の出とともに起きて日没で仕事を終える。高床式の簡素な住居、まだ電気や水道が届いておらず、薪で火をおこし、魚や主食のパナナを焼いて食べ、ろうそくの灯しかない夜、星を眺めて静かに眠った。

森で彼らの原始的な生活に入ってみると、文明社会に生きる我々が思い出すべき大切なこと、学ぶことは多く、森と共存するための知恵と野性的な能力を備え持つ彼らに敬意を感じるようになった。

#### アマゾンの泥染めの今

布を染める作業をはじめて見学した時の驚きは今も忘れられない。泥染めは樹皮から抽出される「タンニン」と、森の奥地から採取する泥に含まれる「鉄」の化合物を利用する染色手法で、デザインの部分だけが反応して黒く染まるのが特徴である。一枚一枚フリーハンドで描かれる希少価値の高い泥染布のことを正しく伝えたいという強い使命感をもった。



▲リマの旧市街

実際には伝統的な手法による泥染めは昔より困難になっている。森の環境が変わり泥染めの染料が手に入りにくくなった。自給自足の生活が崩れ、いろいろなことにお金がかかる。好景気に沸くペルーは物質的に豊かになり、町に出れば仕事にありつける。地味な伝統工芸を喜んで受け継ぐ若者は少ない。

#### 伝統を守るために

シビボ族の泥染めを守るために私に何ができるのか。どうあるべきか、どう進むべきかと悩みながらもシビボ族との付き合い続け、彼らが作る泥染め布をひたすら買い取ることで生活を支えた。私が買い取ることをやめれば、彼らの生活が成り立たなくなり、泥染めを作らなくなるだろう。やがて泥染めの伝統は途絶えてしまう。

「支援って何だろう」とずっと考えてきた。「その時にできることを、無理のない範囲でずっと続けること」これが私の答え。支えるために「変える」必要はない。

移り変わりの激しいこの時代に、森で暮らすシビボ族の人々が、何を大事に思い、どこへ向かうのか、彼らが進む道を静かに見守り、できる限り支えていきたい。

(文・写真提供:馬場 綾さん)

<http://amazon-dorozome.com/index.html>  
(泥染めに関するHP)

